

文化芸術創造都市モデル事業
仙北実行委員会事業評価報告書

文化芸術創造都市モデル事業仙北実行委員会
2013年3月

文化芸術創造都市モデル事業 仙北実行委員会事業評価報告書

文化芸術創造都市モデル事業仙北実行委員会
会 長 門脇光浩
事務局長 是永幹夫

1. 背景と目的

仙北市は、日本随一の武家屋敷と101の蔵と桜並木の角館や日本一の深さを誇る神秘的な田沢湖、豊かな乳頭温泉郷をかかえた北東北を代表する観光地であるだけでなく、江戸時代からの角館の祭り行事、「解体新書」挿絵を描いた小田野直武等の秋田蘭画の拠点、柳宗悦たち民芸運動のなかで注目された樺細工芸、新潮社を創立した出版人の出身地等、文化芸術・工芸の土地柄でもある。一方、東北全体、秋田県全体の人口減のなかで、仙北市も毎年の人口減に歯止めがかからない状況が続いている。特に「3. 11」後の観光客の減少、雇用機会の減少の影響は大きい。そういうなかで、文化芸術創造都市モデル事業1年目の2010年度は、仙北市地域が抱える課題を、市長はじめ行政関係者、観光協会、NPO団体等の横断的な講演会・シンポジウム・ワークショップ等で検討し、このまちのこれからの問題点を浮き彫りにし、プラットフォームづくりを推進した。

1年目の取り組みと総括から、豊かな文化資源・観光資源のさらなるネットワーク化と県都・秋田市との連携、回遊型観光を推進する企画創出を2年目に託した。2年目の2011年度は、1年目の総括のもとに、県都・秋田市との連携を具体化する企画「蔵とアートをめぐるネオ・クラシック カクノダテ！」をメイン事業に据え、秋田市が経営する秋田公立美術工芸短期大学との全面的提携で第一回開催を成功させた。1年目事業の最終盤におこった「3. 11」は、二次被災地の秋田にも多大な損害と観光客激減をもたらした。二次被災地ではあるが、被災地支援・被災者受入れ、義援金活動と同時に、民俗芸能の宝庫・仙北市として、被災地の民俗芸能をお迎えし、お話と演舞を、「復興と絆」シリーズ事業として取り組んだ。

「3. 11」後のわが国のあり方を考えていく一つの要素として、大都市での創造都市推進だけではない、小都市・中都市での創造的地域づくりの重要性を具体化していく課題がある。2年目事業として「創造農村ワークショップ」第一回会議を、全国10都市参加で開催できたことの意義は大きい。本事業は三ヵ年限定事業だが、わが仙北市のみ三ヵ年継続の都市として採択された。その責務もあり、最終年の3年目は、2年目事業のミッションをさらに深めて事業を継続し、2013年1月13日開催の「創造都市ネットワーク日本」の設立に寄与する各地での動きにも連携した。何よりも2013年4月から秋田美術大学として4大化する秋田公立美術工芸短期大学と、角館という類まれな「磁場」を活かした「ネオ・クラシック！カクノダテ」を定着させたことは、2014年開催の秋田県での「国民文化祭」のコア企画のひとつとしての成果を創出した。地域の課題の解決に向けての“推進エンジン”として、「文化芸術創造都市モデル事業」は大きな役割を果たしたと言える。

2. 実施概要

上記の目的に添って、実行委員会で2年目事業の具体化を検討し、事業ごとの作業チームを組み

立てて準備した。「主催事業」3企画を中心に、「共催・協力事業」5企画、「関連事業」5企画と、1年目と2年目の総括のうえに、圏域のさまざまな文化芸術事業の連携・提携を意識的に推進した。大震災の第二次被災地として、第一次被災地支援の企画を、主催・共催・関連のすべてにおいて、積極的に取り組むとともに、この地域の文化資源の豊かさを共有するいい機会にもなった。

主催事業

- ①「蔵とアートをめぐるネオ・クラシック カクノダテ！2012」
 - ②「復興と絆―伝統芸能と地域―」シリーズ
 - ③「クリエイティブタウン・フォーラム in 北東北」
-

①は、都市間連携、次世代連携、蔵の活用、回遊型観光等を推進する企画の2年目事業

②は、大震災後の取り組みとして伝統芸能とコミュニティに焦点をあてて企画

③は、政令指定都市リード型の「創造都市」推進に小・中都市連携を推進する企画の第二弾の各ミッションで準備した。

①は、北東北有数の観光地・角館の蔵を公開し、「アート de まちあるき」の会場にし、観光のトップシーズンの紅葉の季節の10月の10日間開催。2年目の昨年度に「モデル事業」継続採択都市の一つの条件だった「都市間連携」を県都・秋田市と組み、秋田市経営の「秋田公立美術工芸短期大学」の先生・学生たちと連携し、度重なるディレクターズ会議、現場視察、ガイダンス、観光協会との協議、作品ジャンル検討会等を持った。第一回開催なので、初めて検討することも多々あり、準備に時間を要したが、その甲斐あって、新しい創客と展示作品への高い評価（作品の多くに購入希望者）を獲得した。武家屋敷と101の蔵を誇る角館という「磁場」ならではの「アート de まちあるき」の新しい魅力を創出できた。今年度の本事業は企画内容も拡大し、出品作品の幅と量も拡充した。今年4月から4大化になる秋田公立美術工芸短期大学（秋田美術大学に改編）との連携の成功が大きな役割を担った。

②は、日本列島のなかでも民族芸能の宝庫といわれる東北が、史上稀な大震災に遭遇し、復興に向けて被災地の民俗芸能がいち早く避難所まわりを始め、地域の人びとの心のよりどころになっている。第二次被災地の秋田・仙北市も民族芸能の宝庫の地域であり、特に劇団わらび座は、日本列島の民族芸能をもとにした創造発信を国内外に61年間営々と続けているわが国有数の劇団である。被災地の民俗芸能にも各地で長年お世話になっていることもあり、「復興と絆―民族芸能と地域―」シリーズを昨年度から始めた。今年度の第一回は、三陸・大槌町の「虎舞」、第二回は、大震災後の岩手沿岸部の民俗芸能の復興の状況のドキュメンタリー映画上映、第三回は、宮城県石巻市の「雄勝法印神楽」と東北大学+わらび座デジタルアートファクトリーによるモーションキャプチャーによる第三次元記録作業とガイダンスを開催した。

③は、数年前から問題意識としてあった大都市・政令指定都市リーディング型の創造都市推進だけではない、「田園都市型」の創造都市推進の必要性を模索してきたことがベースにある。とくに「3.11」は、その必要性を加速させた。小都市・中都市での創造的な地域づくり―しかも地域の伝統的な文化資源をきちんと活かした取り組みの重要性を「3.11」体験は顕在化させた。幸い、文化庁やNPO法人都市文化創造機構の全面的提携で、北海道から九州まで、賛同する自治体10都市の参加も得て、「第一回 創造農村ワークショップ」を開催できたことは、わが国で

の創造都市ネットワーク推進に大事なベクトルを投げかけたと思う。第一回会議のなかで、第二回会議開催を表明していただいた兵庫県篠山市の皆さんはじめ、多くの参加者から、問題意識を交わし合う情報交換・情報還流の契機となったこと、継続的開催の希望が寄せられた。

近藤誠一文化庁長官の招待講演「創造農村に期待すること」も、「3. 11」後のこの国のあり方を見据えた深い内容だった。現在、「創造都市ネットワーク日本」の設立準備が進められているが、小都市・中都市での創造的な地域づくりの連携・発信、相互の支援について、この「創造農村ワークショップ」を続けるなかで、より良き姿・かたちを創っていきたい。

協力事業

- ①東日本大震災復興支援「音楽でつながろう」コンサート
- ②フォーラム「瀬戸内海文化を子どもたちへ」（愛媛県「坊っちゃん劇場」）
- ③「秋田民謡の父・小玉暁村没後70年記念シンポジウム」
- ④「創造都市政策セミナー」（鶴岡）
- ⑤「出羽からの祈りと再生」（鶴岡）

関連事業

- ①特別展「川端龍子展」（3館合同開催）
- ②福島支援特別展「福島の作家展」（平福記念美術館）
- ③中国・甘粛省交流30周年記念「蘭州歌舞劇院」秋田公演・仙北公演
- ④USA高校生国際修学旅行－仙北市伝統文化・農村文化体験交流－
- ⑤元気してらがフェスティバル

以上の数々の圏域での事業は、それぞれに主催団体があり、継続事業として定着しているものもあるが、「文化芸術創造都市モデル事業 仙北実行委員会」が、意識的に連携して部分的に支援し、協力したものも多い。

3. 主催事業のプログラムの詳細と参加者の感想・意見

- ①「蔵とアートをめぐるネオ・クラシック！ カクノダテ！2012」

2012年10月20日（土）－28日（日） 入場無料

角館の歴史を象徴する「蔵」で、現代の「アート」に出会う旅

会場 蔵／安藤家、太田家、荒川家、西宮家、八柳家 外町交流広場

特設サイト

<http://kakunodate.org/>

招待作家・参加団体

秋田公立美術工芸短期大学の教職員と学生たち、ココラボラトリー、村山留里子（ミクストメディア）、佐藤励（彫刻）、空気ひとし、ほっこり日和

*以下新しい出展作家

山本太郎（美術家） 室井尚（哲学者／美術作家／評論家）、萩原健一（写真家／映像作家）、早川貴泰（アーティスト / 映像ディレクター）

イベント

夜のネオ・クラシック！カクノダテ

10月20日(土)

18:00-19:20 トークショー「3. 11以後－芸術の運命」

- ・リアスアーク美術館学芸員 山内宏康氏
- ・横浜国立大学大学院教授 室井尚氏
- ・京都大学大学院教授 吉岡洋氏

19:30-21:30 「百杯会」

- ・ココラボラトリー代表 笹尾千草さん
- ・リアスアーク美術館学芸員 山内宏康氏
- ・横浜国立大学大学院教授 室井尚氏
- ・京都大学大学院教授 吉岡洋氏

10月27日(土)

17:00-18:30 トークショー「秋田が生んだ奇跡の人 土方巽」

慶應義塾大学アートセンター 森下隆氏

19:00-20:30 野外映像上映「土方巽の軌跡－アーカイブ」

<http://www.art-c.keio.ac.jp/archive/hijikata/>

【広報】

- ・ポスター・リーフレット・のぼり等のデザイン作成
- ⇒秋田公立美術工芸短期大学・阿部由布子さん先生指導で「デザイン表現演習」授業で学生が制作
- ・twitter や facebook の活用

【商店街とのコラボレーション】

- ・「ネオ・クラシック！カクノダテ・ランチ」提供飲食店には、特性はし袋とステッカーを配布し活用

主催：文化庁「文化芸術創造都市モデル事業」仙北実行委員会

共催：仙北市、仙北市教育委員会、一般社団法人角館町観光協会

協力：秋田公立美術工芸短期大学、ココラボラトリー、株式会社わらび座

問合せ先：文化庁「文化芸術創造都市モデル事業」仙北実行委員会

〒014-0369 秋田県仙北市角館町上菅沢 394-2 TEL 0187-54-2700（角館町観光協会）

参加人数 会期中、1, 820人（角館町観光協会調査）

参加者の感想・意見

- ・角館は初めてですが、この展示があることで、街並みがより愛しく感じました。
- ・蔵の持つ力をこれほど感じたことはありません。
- ・若い人たちが増えて嬉しかった。

- ②「復興と絆—民族芸能と地域—」シリーズ

第4回 5月6日(日) 12:00-15:00 「たざわこ芸術村」小劇場 参加者：112人
「瓦礫の中からの再興ーコミュニティと芸能」
岩手県大槌町・大槌虎舞協議会

第5回 8月22日(水) ①14:30-15:40 ②16:30-17:40
「民族芸術研究所」視聴覚室 参加者：87人
「岩手県沿岸部の民俗芸能―復興と現状」鑑賞会

第6回 2月17日 13:00-16:00 「たざわこ芸術村」紫苑 参加者：180人
 「六百年の鼓動を受け継ぎ、未来に向けて舞う」
 宮城県石巻市雄勝町・雄勝法印神楽保存会
 東北大学+わらび座デジタルアートファクトリーによるモーションキャプチャーによる
 神楽の第三次元記録とガイダンスも併設開催

- ・ 昨年に引き続きすべて参加出来たが、民俗芸能の底力はすごい。
- ・ このシリーズが2年間で終わるのはもったいない。なんらかの形で継続を願う。
- ・ 大津波・大地震の苦しみのなかで、伝統芸能を柱にして再建しているお姿に涙、涙だった。
- ・ 昨年感動したので今回は家族で駆けつけました。家族で泣きました。
- ・ 息子が地元で神楽のチームに所属しているが、一緒に参加して良かったです。
- ・ わらび座が60年以上も各地の民俗芸能とともに歩んできたことが良くわかった。
- ・ 祖父が関わっていたまちの踊りがすたれてしまっているが、なんとか再興したい。

- ・どの会も親子で観に来ている姿が多く、会場の雰囲気にも心打たれました。
- ・毎回、芸能保存会によるわらび座の役者さんたちへのワークショップがあり、保存会の芸能の素晴らしさのみでなく、芸の受け継ぎの一面も見れて良かったです。
- ・2014 年開催の秋田県での国民文化祭でも、ぜひ招待して舞ってほしい。
- ・雄勝法印神楽を初めて観た。迫力満点！ この力で復興にがんばってほしい。

③「クリエイティブタウン・フォーラム in 北東北」 参加人数 93人

日 時：平成 24 年 10 月 21 日（日）13:30～17:30

会 場：たざわこ芸術村 ホテル1 階「紫苑」

主 催：文化芸術創造都市モデル事業仙北実行委員会、仙北市

共 催：秋田県、秋田県教育委員会、NPO 法人都市文化創造機構

後 援：仙北市教育委員会、「国民文化祭・あきた 2014」応援事業

13:30 歓迎スピーチ 門脇光浩・仙北市長

「創造農村への挑戦」（15 分）

13:45 特別講演（45 分）

佐々木雅幸（大阪市立大学都市研究プラザ所長／同大学院創造都市研究科教授）

14:45 パネルディスカッション（150 分）

藤 浩志・十和田現代美術館副館長

安藤大輔・角館町観光協会会長

門脇光浩

佐々木雅幸

◆コーディネーター／北原啓司・弘前大学教授

17:15 まとめ（15 分）

17:30 閉 会

◆特別講演と遠野市の事例を報告する予定だった赤坂憲雄氏は、
ドクターストップとなり出席できず、特別講演を佐々木雅幸氏がおこない、
急きょ弘前大学の北原啓司氏にコーディネーターをお願いした。

▼開催趣旨

文化庁長官表彰（文化芸術創造都市部門）やユネスコ提唱による国際的な創造都市ネットワークの推進などによって、全国的に創造都市を政策目標に掲げる自治体が着実に増加している。その中には大都市圏のみならず、暮らしに根ざした生活文化や伝統産業、自然景観などを活かしたまちづくりに取り組む小規模な市町村も含まれる。文化庁もそうした市町村に注目し、東川町や仙北市、鶴岡市、中之条町、木曽町、十日町市、篠山市などを「文化芸術創造都市」と位置づけて

いる。しかし、全国に目を転じてみれば、独自の知恵と工夫によって成果を上げている市町村は数多くあり、従来の“成長”概念にとらわれない社会のありようが求められている現在、都市は小規模自治体から学ぶべきことが多くあるのではないだろうか。

前年度10月にたざわこ芸術村で開催された第一回「創造農村ワークショップ」に参加した全国10の自治体の交流と成果を引き継ぐかたちで、北東北圏域の都市の試みと都市間の交流を創出するために「クリエイティブタウン・フォーラム in 北東北」を企画した。

参加者の感想・意見

- ・十和田市現代美術館の藤浩志副館長のお話に新鮮な視点を得た。
- ・北原先生の事例報告は、身近なところでさまざまな取り組みが起こっていることを実感した。それぞれの取り組みの個性を強く感じた。
- ・自分の居る地域の独自の風土のもとで、さまざまな取り組みがされていることに感動した。
- ・たざわこ芸術村の存在をこの会を通してあらためて感じた。うらやましいです。
- ・私たちの足元の地域の文化資源をどう大切に考えていくのかが大事ですね。
- ・「つながること」の大事さを、昨年度に続いて教えていただきました。
- ・昨年のように懇親会を持ってほしかったです。
- ・若い人たちの参加も多く、頼もしかったです。
- ・人口3万弱の仙北市、人口6万の十和田市でお互いに連携できることがたくさんありそうです。
- ・佐々木雅幸先生のお人柄といつもの最先端のお話に惚れ込みました。
- ・このようなフォーラムもこれからも続けてほしい。
- ・少なくとも北東北エリアでの今後のネットワークをお願いしたい。

4. 実行委員会構成員

- | | |
|-----|-------------------------|
| 会 長 | 門脇光浩（仙北市長） |
| 副会長 | 安藤大輔（角館町観光協会会長） |
| 委 員 | 野田敏明（秋田県立大学副理事長） |
| | 小島克昭（株式会社わらび座代表取締役） |
| | 佐川博之（秋田魁新報社取締役編集局長） |
| | 森 義之（AKT秋田テレビ報道制作局長） |
| | 坂本 洋（かくのだてフィルムコミッション会長） |
| | 佐藤 強（仙北市企画政策課長） |
| | 草薨博美（仙北市観光課長） |
| | 成田祐子（仙北市教育委員会生涯学習課長） |
| | 富岡 明（仙北市教育委員会文化財課長） |
| | 大和田しずえ（アート夢ネットあきた事務局長） |
| | 是永幹夫（わらび座相談役／実行委員会事務局長） |

5. 評価委員会構成員

- 委員長 佐藤暢男（秋田経済同友会代表幹事）
委員 渡邊有一（秋田公立美術工芸短期大学学長補佐）
小松田儀貞（秋田県立大学准教授）
佐藤和志（田沢湖観光協会会長）
佐藤貢一郎（有限会社妙乃湯専務取締役）

6. 評価委員会からの意見

事業成果の評価

1) 都市間連携と創造領域圏の拡大

多彩な主催事業、共催・支援事業の取り組みも活発に行いながら、大震災被災地の隣県の立場から、被災地の伝統芸能を招き、披露する試みの2年目の成功は、事業の目標を十分に達していると評価する。

仙北市と秋田市の連携企画の性格が強い「蔵とアートをめぐるネオ・クラシック！ カクノダテ」の他、「復興と絆」シリーズ、「クリエイティブタウン・フォーラム in 北東北」、震災復興支援「音楽でつながろう」コンサートのシリーズ、愛媛「坊っちゃん劇場」（劇場の絆での仙北市と愛媛県東温市との交流）での初日記念シンポジウムへの近藤誠一文化庁長官のご参加など他県地域との連携企画も成功した。県内では人材の豊富な秋田市とのつながりはこれからも重要だが、県内の他地域（例えば近隣を意識して内陸縦貫鉄道路線周辺地域）との連携企画の増加の工夫が求められる。2014 年秋開催の「国民文化祭あきた」に向けて具体化してほしい。

2) 事業間のシナジー効果

創造農村ワークショップ第一回開催に引き続き「クリエイティブタウン・フォーラム in 北東北」の開催は、同じ目標を掲げる地域同士の今後の連携に向けて刺激を与えた。

文化芸術をめぐる多様な企画が仙北市を中心に展開し、複合的な効果の創出をめざしてプラットフォームづくりを推進しているが、角館での「蔵とアートをめぐるネオ・クラシック！ カクノダテ」の2回目の一定の成功と”不発”部分（観光協会との連携、行政の関わり等）の課題など検討すべき問題もあらためて浮上した。デスティネーション・キャンペーンのプレ企画に人手を取られたことや、秋田公立美術工芸短期大学の4大化のなかでのコアの先生方の多忙さも影響したが、何よりも地元の推進エンジンとなるスタッフの育成が喫緊の課題となっている。

3) 人材・サポーター育成

「蔵とアートをめぐるネオ・クラシック！ カクノダテ」の一定の成功が示すように、若い人材

の発揚の機会を創出したが、必要な広がりを作るまでには至らなかった。地元と作家たちとの協働関係、行政の立ち位置と関わり具合等、今後の展開方向と方法について検討していきたい。願わくば、地元自治体サイドでの協働関係を具体化していただきたい。

4) 文化・観光NPOとの協働

2013年度のデスティネーション・キャンペーンの本開催、2014年度の国民文化祭の秋田県開催を目前にして、本「モデル事業」が果たしている役割と効果は一定あるが、大きな影響力を行使するまでには至らなかった。仙北市では観光協会をはじめNPOを含む関連団体がtwitter、facebookなどソーシャルメディアを通じた情報発信に力を入れており、これが本事業と連動することも多かった。こうした情報ネットワークをベースに関連団体間でより協働を進めて行くことが望まれる。体制の問題もあるが、角館町観光協会の関与のレベルをあげていただきたい。

5) 行政との情報共有度

秋田県及び仙北市との情報の共有は、十分に行われているが、本事業への行政の関わりのさらなる強化を求めたい。人手支援も含めての具体的関係の強化は必須。

仙北市市長が本事業実行委員会会長を務めたことで諸組織の垂直統合が図られ、行政のみならず市民組織との情報共有も図られているが、ヨコの関係性の構築は今後の課題。仙北市長自ら情報発信に関わり積極的に事業のアピールに努めた点は評価されるが、首長の力量に大きく依存せずとも組織内でこの体制が維持されるよう望みたい。2014年開催の「国民文化祭・あきた2014」成功のためにも必須課題。

6) 地域住民ニーズ反映の仕組みづくり

実施中のモデル事業が、他地域に与える影響は相当のものと理解する。さらに、プラットフォームづくりの進展に期待する。

特に「蔵とアートをめぐるネオ・クラシック！カクノダテ」では蔵という地元の資源を生かしその価値を可視化することにつながり、地域住民の関心に配慮し地域アイデンティティの自覚化に貢献したと思われる。こうしたことが地域住民ニーズを事業に反映させる仕組みづくりにつながり、今後のこうした活動への住民の参加意識を高めるものとなったと考えられる。「国民文化祭・あきた2014」の前年にあたる新年度にどこまで具体化できるかが勝負のしどころだと思う。

7) 文化芸術の持つ創造性の寄与

例えば「創造農村」の表現のように、地域或いは目標を同じくする全国の仲間、関係者に十分に刺激を与え、意識化に役立っている。

本事業では現代アートから伝統芸能、音楽まで多様な文化芸術が生々の形で包括的に提示され、講演、シンポジウムなどその意義を批評的に見渡す企画と一体的に構成されることで文化芸術の創造性が強く印象づけられた。特に年度後半の「復興と絆—伝統芸能と地域—」の一連

の企画は東日本大震災という未曾有の危機にある東北、日本において文化芸術に何が出来るか、その力を参加者に強く意識させ、本事業の意義を高めた。

8) 事業サイトのアップ

事業の公開度という点では、現在の新聞、テレビ、情報誌はもとより、関係機関・団体への積極的な情報提供と宣伝活動によって、普及の度合いはある程度あるが、本事業を広く知ってもらうためにはサイトアップの確立には至っていない。今後は facebook などソーシャルメディアとの連携もこれまで以上に重要だと思われる。

事業成果の評価

評価委員会委員長 佐藤 暢男

1) 都市間連携と創造領域圏の拡大

多彩な主催事業、共催・支援事業の取り組みも活発に行いながら、大震災被災地の隣県の立場から、被災地の伝統芸能を招き、披露する試みの成功は、事業の目標を十分に達していると評価する。

2) 事業間のシナジー効果

創造農村ワークショップやクリエイティブタウン・フォーラムの開催は、相乗効果の創出に十分に役立ち、同じ目標を掲げる他地域にも刺激を与え得たと見る。

3) 人材・サポーター育成

ネオ・クラシックカクノダテの成功例が示すように、若い人材の発掘、新しいサポーター育成にも、着々と成果を上げていることを、自信と捉え、継続を期待する。

4) 文化・観光NPOとの協働

「これで良し」という定量がないものだけに、一步一步着実に進んでいる姿に、取り組みの労を多としたい。

5) 行政との情報共有度

秋田県及び仙北市との情報の共有は、十分に行われていると認識する。気を緩めることなく、一層広範な分野にわたっての共有を目指して欲しい。そのことが、県民、地域住民との接点となり、協力体制の強化にもつながるだろう。

6) 地域住民ニーズ反映の仕組みづくり

実施中のモデル事業が、他地域に与える影響は相当のものと理解する。さらに、プラットフォームづくりの進展に期待する。

7) 文化芸術の持つ創造性の寄与

例えば「創造農村」の表現のように、地域或いは目標を同じくする全国の仲間、関係者に十分に刺激を与え、意識化に役立っている。

8) 事業サイトのアップ

事業の公開度という点では、現在の新聞、テレビ、情報誌はもとより、関係機関・団体への積極的な情報提供と宣伝活動によって、普及の度合いは相当の高さにあると感じる。一層の検討を期待。

評価委員会の特別提言

「蔵とアートをめぐるネオ・クラシック！カクノダテ」は、角館の「磁場」を活かした画期的な企画であり、秋田公立美術工芸短期大学と連携した新しいアートdeまちあるき事業だと思う。角館ならではの「強み」をさらに活かし、継続性のある事業に仕立てていくうえで、実行委員会のみでなく、行政サイドの担当チームを設置することを推奨したい。市のなかにある農村デザイン室が、まちのクラフト産業振興もにらんで積極的に関わることを期待したい。2013年春から4大化になる同短大にとってもオープンキャンパス構想のなかにこの事業を活用することを推奨したい。

7. 今後の展開

◆これまでとこれから

○これまでの活動の成果

- ・文化芸術による地域づくりにおける仙北市の既存の取り組みの成果と課題の抽出
- ・既存の取り組み団体と新しい事業団体の連携とプラットフォームづくり
- ・「創造農村」視点での全国ネットの兆し創出と第一回会議の成功
- ・「国民文化祭あきた・2014」準備への寄与

○これからの活動の課題

- ・広報の拡大ーホームページの実用化 facebook 等の活用
- ・文化庁「地域発・文化芸術創造イニシアチブ」の活用
- ・行政内の体制確立

別紙「2012年度事業関連図」にあるように、「モデル事業」のメイン企画を中心に、クリエイティブ・プラットフォームを構築してきた。

そのことが「国民文化祭・あきた2014」の機運醸成の一つの要素にもなり、「創造都市ネットワーク日本」設立にも寄与したと思う。